

令和6年度 第2回湖南省生涯学習審議会 会議録

日時 令和6年(2024年)12月18日(水)

午後7時～午後8時30分

場所 西庁舎 3階大会議室

出席者 10人

欠席者 2人

令和6年度滋賀県社会教育委員連絡協議会表彰 伝達表彰

1 開会

(1) 会議の成立

委員の過半数出席のため成立

(2) あいさつ

部長：

委員のみなさまにはすべての人々に活躍の場と安心して暮らすことのできる社会の実現に向けまして、地域の社会教育の牽引役といたしましてご活躍いただいております。日頃より学習の振興、社会教育の推進にご尽力いただきありがとうございます。

本日は社会教育の環境が変化しているなかで、地域全体で教育を支えるということがますます重要になってくると考えております。地域全体で子どもたちを支え、地域社会とのつながりを深めていくことが欠かせなくなってきました。

社会教育は学校教育、家庭教育とは異なり、幅広い年齢層の方々が生涯にわたって学びを深め、自らのスキルを生かして社会に貢献するための機会を提供するものと考えられます。地域の歴史や文化、伝統を次世代に継承するためにも、社会教育の推進が今後必要不可欠です。今回の会議では、地域住民が主体となってコミュニティを支える社会教育ということをテーマに情報交換をしていただく時間を設けております。

持続可能な地域社会の安定のために、湖南省におけます社会教育をさらに充実させるため、行政と地域住民のみなさん、そして教育機関が一丸となって取り組むことが必要となっています。最後になりますが、委員のみなさまにおかれましては、本日の社会教育生涯学習の充実のため忌憚のないご意見を賜りたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

2 報告事項

○滋賀県社会教育研究大会(11/11)について

会長：

私が出席しましたので、報告します。社会教育研究大会の午前中に理事会がありました。理事会とはどんなところだろうかと緊張していましたが、意外とフレンドリーでした。各出

席者から、自分の市町の社会教育の現状を簡単に発表しました。その後、表彰式があり、午後からは防災をテーマにしたお話でした。私は出席できなかったのですが、しが志縁を読ませていただくと、防災と社会教育、持続性社会といういつもとは少し違ったお話だったようです。

○青春祭(あおはるさい)「湖南省青少年育成大会」(11/24)について

委員：

11月24日甲西文化ホールで参加しました。私も中学校の現場が長かったので、実際指導している子どもたちが運営にかかわったこともあるのですが、湖南省独自の方法で、中学生が企画進行運営を行い、とても頑張っている姿が見られました。今年の担当は甲西北中学校と日枝中学校の子どもたちで、2年生が中心となっているのですが、子どもたちが考えたクイズでのビンゴゲームがあったり、景品についても子どもたちが考えて運営していますので、大変好評であったと思います。

3 情報交換

「地域住民が主体となってコミュニティを支える社会教育」

・各団体の取り組みについて

事務局：

教育委員会では、第三次教育振興計画の策定を進めています。この計画は、教育委員会の計画の中で、一番の大元になるもので、3月に策定される予定です。湖南省の社会教育も新しい計画に反映させていただく予定です。

生涯学習審議会の皆様は、いろいろな団体やコミュニティ等で実際に活動いただいている方ばかりですので、それぞれ令和4、5年度の生涯学習審議会報告書の若者の地域活動参加が難しくなっているという課題について、教育支援課は青春祭を通して青少年リーダーの育成に取り組んでいます。例えば、中学校ではボランティア部がまちづくりセンターまつりに参画したり、小中学生が区民会議のイベントに参画したりしているのですが、市で若者の意見を聞きたくても、なかなか応募がないような現状であります。みなさんの取り組みの中で工夫されていることとか、他団体でもこんな活動をしているよといったことがあれば教えていただきたいです。

今日の審議会でもいただいた意見をもとに、市全体として取り組むべき生涯学習の課題があれば、その解決に向けて取り組みたいと考えております。具体的には、来年度市のいろいろな団体をつなげるような学習会をしたいと考えております。

今日はお話しやすいように資料1のシートを用意しましたので、ご記入いただいて会議の最後に回収させていただければと思います。

委員：

活動団体は下田小学校で開催していますらしく勉強会という放課後学習の支援をしています。活動頻度は週3回で、活動場所は地域の集会所です。小学生は155人程度、中学生は少ないですが、高校生は1人参加しています。年齢は小学1年生からボランティアの方で70代までです。

イチオシは、らくらく勉強会と管轄はちがいますが、サマースクールをしていて、夏休みの宿題で中学生ボランティアが参加してくれています。若者の参画について、小学校の卒業生が時間があれば来てくれて、近況報告をしたり、小学生と交流してくれています。若者の加入のきっかけは、小学生のうちから手を打つことが大切ということがわかりました。低学年から関わっていると、関係も深くなるので、卒業したら帰ってきてねと送りだしています。中学校のボランティアで呼びかけると、らくらく勉強会出身の子が多いと感じるので、良く育ってくれているなと思っています。

若者に限らず、新規加入のアイデアとしては、地域で役員などの活動されている方は、地域や子どもたちのことをすごく考えてくれている人がいるので、そういった方達にちょっと仕事は増えるけれど、活動に参加していただけないかとお話しすると協力していただけることもあります。ご新規さんよりは、ものすごく頑張ってくれている人に声をかけるのもありかなと思います。

他団体との連携については、下田小学校のなすびーずというボランティア活動をしている機関があるのですが、私を含めその地域コーディネーターのみなさんと連携していることによって、お互いのボランティアの交流などができております。

委員：

水戸小学校で地域コーディネーターとしている活動ともう一つ就園前のお子さんに関わる活動をしています。学校に関わる方という水戸っ子応援団という活動団体を平成22年から続けています。これは、地域の方たちや保護者の方にボランティアに来ていただいております。主に60～70代の年配の方になりますが、15名くらいに協力いただいております。登録人数は60～70人で、できるときに来てもらえればいいかなという感じです。

イチオシ事業は、学校内外のことですと、小中学校が連携して夏休みに地域のネイチャーゲームを指導できる方に来ていただいて、クラフトづくりをしたり、冬休みには書道教室をしたりしています。小学生が中学校に行って、中学生になった自分をイメージしたり、大きくなったら自分も支える側になろうかなと感じてもらえたらいいなと思っています。

学校の中での読み聞かせ活動も、ボランティアさんが熱心にしてくださっているのですが、短い時間なので本について詳しく説明したり、これがいいよといった話はできないのですが、この間図書館に行ったときに子どもたちが寄ってきてくれて、私が紹介した本を借りに来たんですと言ってくれたことがうれしくて、私がうれしく感じたようなことをボランティアさんも実感していただけるとやっていてよかった、またやろうというようにつながっていくのかなと思っています。

若者との関わりがなかなか難しいのですが、実習にきていた卒業生に声をかけたり、学校以外のところに交流できる場所を作ったりできるのかなと思っています。

連携している団体は、まち協さんや民生委員さんなど地域のいろいろなパワーをもった方を巻き込めるようにこれからも頑張りたいなと思います。

委員：

私は小学校に在籍しておりますので、直接社会教育活動というものではないのですが、やはり大事だなと思うのは、小さい頃からいろいろな地域の活動に関わっていくことで、土壌や空気が作られると思います。卒業された方がまた地域に還元してくれるというようなサイクルができればと思います。

委員：

私はスポーツ推進委員という活動を行っています。活動の頻度や内容は、イチオン事業とも関連するのですが、毎月第3土曜日に体育館を開放して午後7時から9時まで5歳～70歳くらいまでの方が100名ほど参加いただいて、ニュースポーツや親子でふれあっていただく活動を行っています。

また、来年の5月に国スポ障スポの関係でキンボールレクリエーションのデモンストレーションを総合体育館で実施します。関心があるかたは見に来てください。3月の第1土曜日の午前中にキンボールのイベントを行いますので、興味がある方は参加ください。

若者の加入のアイデアについては、小学校に出前講座に出向いて、スポーツを通じて協力をさせていただいており、そういうときに来ていただいた方に声をかけています。実際に、出前講座に来ていただいた方に声をかけて高校生や大学生でスポーツ推進員になっていただいた方もいます。若者の方からは、入り方がわからないので、こちらから遠慮なく声をかけて、こういう活動をしているので興味があったら一度見に来てくれないか？という感じでしていったら、若者の参画は増えていくと思います。それと、若い人は新しい面白いアイデアを持っているので、逆に私たちが教えてもらえるので、一緒に遊べる場を設けて、まず仲間づくりをしてから、話をしていけば、活動内容はちがったとしても若者の参画は難しくないと思っています。

他団体の連携は、スポーツ協会とお互いにスポーツを通じてPR活動で連携しています。

委員：

国際協会の教育支援グループのボランティアに所属しているので、水戸小学校のさくら教室でお世話になっております。毎週木曜日の午後2時から2時45分に、日本の文化や遊びを通じて子どもたちと工作をしたりゲームをしたりする活動をしています。先週は、東寺のかたに来ていただいて、藁からしめ縄を作りました。藁を触ったことがない子どもたちばかりだったので、通訳してもらいながら作って、今回、しめ縄作りをしてよかったなあと思いました。私が活動しているのは木曜日の日中なので、若い人にボランティアで一度来てみてとお願いしても、学校やお仕事をしているので、やっぱりリタイアされた方じゃないと難しいのですが、ボランティアの募集のときは、教育支援グループの活動について見学してもらって誘ったりしています。

委員：

湖南省文化協会で活動しています。活動範囲などは各サークルによって違いますが、24団体ほどあります。私は、樹脂粘土の作品を作成したり、それを体験してもらったり、展

示をしたりしております。チャレンジ講座というのを7月から10月くらいにかけて行っています。小さいお子さんからご年配の方まで参加できるような講座を開催しております。例えば小さいお子さんでしたら、キッズダンスや石部太鼓の体験をしたり、私のサークルでは、小学生に樹脂粘土でかわいいお花が作れる体験教室を夏休みに実施しています。サークルによっては、加入してもらうことが難しかったりしますが、それでも湖南市全体の芸術分野の周知や向上をしていけるような活動をしています。他団体との連携は、姉妹都市との交流で、作品の交流をしています。

委員：

市外の合唱団で活動しています。好きな曲を指導してもらいながら練習し、定期演奏会も開催しています。指導者の先生が草津や大津で活動しているので、草津や大津のイベントに参加することもあります。他団体との関わりについては、指導者の教え子の方や指導者の別団体（児童合唱団）とコラボしてイベントに出演することがあります。

団員は30代から40代が中心で子育て世代で、家庭と仕事以外に自分の時間を持つことが難しい状況で、団員数も減少しています。子育て世代が活動するにはパートナーの理解が重要だと思います。課題として、若者は時間と気持ちに余裕がなく、子どもを預けられる場所がないなどの問題がクリアできれば、自分の趣味や地域の取り組みなどにも参加できると思います。

委員：

部落解放同盟という団体で活動しています。活動頻度は月1回の委員会、その他各種人権関係の集会や研修会に参加させていただいています。支部内は約60人程度おりますが、年齢層は40代から70代とかなり高齢になってきております。

イチオシ事業というのはあまりないのですが、行政と懇談会をさせていただいて、どちらかというと教育というより社会の規範基盤をできるだけ今の状況に合わせていきながら進めていければという思いで活動しております。

若者との関わりについては、団体というか自主活動学級で、若い世代の方が子どもたちに対して、隣保館で自分たちの生い立ちや歴史を話したり、レクリエーション活動をして仲間づくりをしたりしています。

若者加入のアイデアについては、私の団体は加入ということがなく、出生というところに傾いたところがあるので、こういった話にはなかなかありません。ただ、人権感覚としては、世界的に見ても日本は結構遅れていると言われていきますので、自分たちの感覚をより磨いていく必要があると思っています。年配の方にも理解いただけるように、お話をしたり集会に参加していただいたりしています。この間、神戸で大きな集会があったのですが、そういったところに参加することで、いろいろな人権課題、この間のは身体障がいがある方の講演だったのですが、女性の人権の講演などを聞いて、社会の問題点やゆがみのようなものをどうやって直していこうか考えながら活動しています。

また、私が最近考えていることとして、他市の事例ですが、学習の場を午後10時くらいまで提供されているところがあります。私も他市で利用させていただくことがあるの

ですが、受験生なのか学生がたくさん利用されていますし、私のようなおっちゃんも来ていましたし、電気・インターネット・Wi-Fiが使用できるので、大学生くらいの方も多くいました。そういうところで学習していると隣では別のサークルが活動していたりするので、出会いが生まれたりするのではないかと感じました。興味がない分野に触れられる場所やつながれる場所が減っていると感じているので、そういった場所が今後生まれたらいいのになと思います。

連携している団体は、人権団体はいろいろと関わりがあります。あとはNPO法人や日本語学級をされているところなどとは、つながって情報交換をさせていただいています。連携の内容としては、人権侵害があった際に県や市と話をするのですが、小さい頃から人権感覚、相手を尊重することを学んでほしいなと思います。相手を受け入れる土壌を子どもうちから育て、インターネット上だけでなく人とのやりとりができるようにするというのは非常に大切だと思っております。

会長：

私は湖南市の文化財審議会に属しています。長浜市と愛荘町の審議会の委員もしています。文化財審議会のなかでは、民族・祭り・年中行事について、いろいろと審査をしています。どこからも聞くのは、少子高齢化によって、祭りがやせているということです。いろいろな保存会から、そういう問題があると聞いています。また、祭りには女性が参加できない、これを今後どうしていけばいいだろうという問題もあります。私は大学で若者に関わっていますので、学生に、こういった現状を伝えて、自分たちがどのような関わり方ができるかということを考えてほしいということを主題にして講義をしています。

副会長：

三雲学区まちづくり協議会です。お手元にまちづくり協議会の広報を配布しています。年2回発行しています。運営委員は甲西中学校区の9区から各3～4名で構成されており、32名います。年齢層は60歳以上です。

イチオシ事業は、高齢者の居場所づくりのカフェを開設しています。また、広報誌にあるように各部でいろいろな活動をしています。

若者との関わりについては、夏休み学習会を開いて、学習やゲームをしています。小学生に防災の講座をして、そのときに中学生が防災グッズの説明をしてくれました。私たちが話すよりも年齢が近い子がすることで非常にわかりやすくて良かったと思います。

活動の頻度は、部によって違っていて、月1回や2か月に1回のところもあります。各部から運営委員を出してもらっていますが、70歳以上でも働いている人もいます。若者のアイデアを聞くことが出来ていないので、若者がもっと参画できるように模索しています。どこの団体でも同じですが、後継者不足の問題もあります。運営のなかでいろいろな役員がありますが、引き継いでくれる人がいない。活動内容については、資料を見てください。

会長：

委員のみなさんの話を聞かれて、質問はございますか。私から一つ尋ねたいのは、「文化財審議会」をご存じですか。ぼんのこへんのご祭や東寺の鬼走りが少子高齢化にあえいでいます。そういったものが文化財に指定されて、学校との連携を深めていければと模索しています。このことについて、みなさんの意見を伺いたい。

委員：

女性が参加できないと思っていたが、日枝神社のちびっ子相撲に女の子も参加できるようになりました。女の子も参加できる祭りが増えていくのかな、と思っています。

会長：

昔、女性は神事に参加できなかったが、時代が変わって、女性の参加も増えて行くだろうと思います。長浜市でのアンケートでは、祭りに参加したい女性の方が多い。長浜市の子ども歌舞伎をする子どもがいなくなっている。保存会の人は昔からそう（男の子だけ）だから…と言うけど、昔はこうだったけど、今は変わっているということが大切だと思います。

会長：

若者の参画を阻んでいるものは何だと思いますか？

委員：

時間がないというのはすごくあると思います。

委員：

お母さんが忙しいと、申し込めないということもあります。余裕がない世代の人たちのための助けが必要だと思います。

委員：

市が実施する若い方向けの企画、事業について、対象が分かれているので、行ってもいいのかな？と思うことがあります。

委員：

若い人が発言すると、年配の人が自分の考えを押し通すことがあります。それが続くと若い方が離れてしまう。

委員：

そういったところを改善するようにしています。昔は上下関係を作っていたが、私の団体では全員「さん」づけにし、必ず全員が発言をして、否定しないようにしています。若い人が意見を言いやすい雰囲気を作って、若い人の知識を吸収できるようにしたいと思っています。横のつながりを持って、お互い助けあえたらいいと思っています。

委員：

連携できる場所がないので、情報交換ができる場所づくりが必要。

委員：

文化協会は趣味の世界。子どもが来ると大人も来てくれる。趣味の世界でも広がっていく。

委員：

もっと市のホームページなどを活用して、PRしていければいいと思います。

4 今後の事業予定

資料2のとおり

5 次回の会議日程について

3月に開催予定。日程調整して決定します。

6 その他

特になし

7 閉会